

第1章 青少年の逸脱行動の実態とその類型化

本章では、まず、調査結果から得られた高校生の逸脱行動の実態とその逸脱行動を行った理由について、概観しておきたい。さらに、対象となった高校生が、どの程度問題行動や非行などの逸脱行動をしているか、その逸脱の度合いを一定の基準で測定し、逸脱の程度によってグループに分類しておきたい。

第1節 青少年の逸脱行動の実態とその理由

(1) 青少年の逸脱行動の実態

本調査では、逸脱行動の実態を調べるために、14種類の問題行動や非行を挙げ、それぞれについて高校生たちが経験したことがあるかどうかを尋ねた。14種類の逸脱行動の項目と、それらを高校生たちがどの程度経験しているかを示したのが表1-1である。

質問項目には、学校生活に関わる「授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む」、「パーマをかけたり、髪を染めたりする」というような軽微な問題行動も含めた。その理由は、調査対象者の中に、補導や検挙されるような大きな逸脱行動をしていない高校生も多く含まれていることを考慮に入れたためである。軽微な問題行動から明らかな非行までも含めた逸脱行動の動向を探ることによって、現在の高校生の逸脱行動の実態やその理由がより全体的に把握できるのではないかと考えたのである。ただし、「パーマをかけたり、髪を染めたりする」ことを、校則等で禁止していない高校もあることが、調査実施の際の対象校の聞き取りから明らかになった。そのような高校では、「パーマをかけたり、髪を染めたりする」行為は、高校生にとって問題行動と認識されていないであろうと推測される。

逸脱行動に関する表1-1で、「一度でも経験したことがある」者の割合をグラフにしたのが、図1-1である。最も行動の割合が多かったのは「お酒やビールを飲む(飲酒)」で69.5%であり、次に「授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む」(67.9%)であり、約70%の高校生が体験していることがわかる。こうした行動は高校生にとっては、普通のことと、取り立てて問題にするようなことではなくなっているようにも見える。

次に多いのは「夜11時過ぎに友だちと遊ぶ(深夜徘徊)」(54.1%)「パーマをかけたり、髪を染めたりする」(53.7%)である。「飲酒」「夜11時過ぎに友だちと遊ぶ」に関しては、「よくある」という回答をした高校生の割合は、それぞれ、12.6%と10.5%と1割に及んでおり、10人に1人以上の高校生にとって、飲酒や深夜徘徊が常態化していることがわかる。

また、経験した割合が多かった4項目(「飲酒」、「授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む」、「夜11時過ぎに友だちと遊ぶ」、「パーマをかけたり、髪を染めたりする」)に関しては、男女別、学校立地条件、在学する高校の大学進学率によって、経験者率に違いがある。表1-2、1-3、1-4からは以下のことが言える。

「飲酒」を「一度でも体験した人」の割合では男女であまり差がないが、「よくある」と回答した人の割合は男子の方が多い。また、学校が「都心」にある高校に在学している

表1-1 逸脱行動の経験とその程度(%)

		まったく くない	一度でも 経験した ことある 人の割合	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る
1	授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む	32.1	67.9	22.8	31.1	14.0
2	パーマをかけたり、髪を染めたりする	46.3	53.7	22.6	14.0	17.1
3	病気やケガなどの理由がないのに、さぼって学校に行かない	61.3	38.7	20.7	12.6	5.4
4	校則をやぶって注意される	53.8	46.2	27.2	12.5	6.5
5	学校の物をわざとこわしたり、傷つけたりする	85.6	14.4	10.3	3.0	1.1
6	自分の家のお金やものをこっそり使ったり、持ち出す	75.0	25.0	17.9	5.4	1.6
7	家族に知らせないで、外泊する	87.1	12.9	6.0	4.0	2.9
8	夜11時過ぎに友だちと遊ぶ	45.9	54.1	18.6	25.0	10.5
9	お酒やビールを飲む	30.5	69.5	22.6	34.3	12.6
10	タバコをすう	72.6	27.4	10.5	5.8	11.1
11	テレクラに電話する	91.5	8.5	7.1	0.8	0.5
12	店の品物を万引きする	77.3	22.7	16.2	5.0	1.5
13	他人の自転車を勝手に使ったり、盗んだりする	85.7	14.3	9.6	3.4	1.3
14	ナイフを持ち歩く	96.1	3.9	2.4	0.8	0.8

図1-1 逸脱行動の経験者率(%)

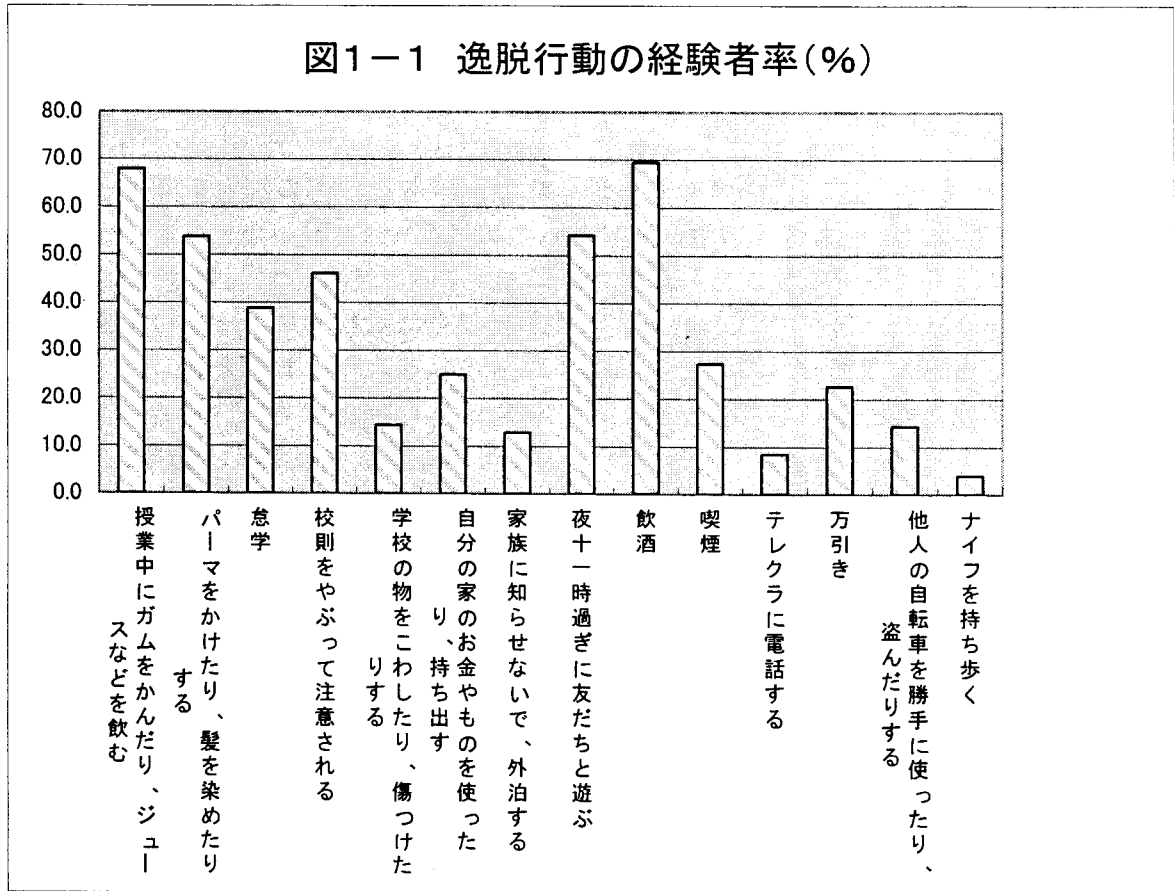


表1-2 男女別の逸脱行動の経験者率

9. お酒やビールを飲む

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
男子	29.5	19.7	36.0	14.8	100.0
女子	31.4	25.6	32.5	10.5	100.0
合計	30.5	22.7	34.2	12.6	100.0

1. 授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む

	まっ たく	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
男子	35.3	20.6	30.4	13.8	100.0
女子	29.5	24.9	31.5	14.1	100.0
合計	32.3	22.8	31.0	14.0	100.0

8. 夜11時過ぎに友だちと遊ぶ

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
男子	38.8	17.4	29.4	14.4	100.0
女子	52.5	19.8	20.8	6.9	100.0
合計	45.9	18.7	25.0	10.5	100.0

2. パーマをかけたたり、髪を染めたりする

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
男子	57.8	18.5	12.3	11.4	100.0
女子	35.6	26.6	15.4	22.4	100.0
合計	46.3	22.7	13.9	17.1	100.0

表1-3 学校立地と逸脱行動の経験者率

9. お酒やビールを飲む

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
都心	27.1	21.7	34.0	17.2	100.0
その他	32.4	23.1	34.4	10.1	100.0
合計	30.5	22.6	34.3	12.6	100.0

1. 授業中にガムをかんだりジュースなどを飲む

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
都心	25.1	23.8	32.1	19.0	100.0
その他	35.9	22.3	30.5	11.3	100.0
合計	32.1	22.8	31.1	14.0	100.0

8. 夜11時過ぎに友だちと遊ぶ

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
都心	34.1	16.2	32.8	16.9	100.0
その他	52.3	19.8	20.8	7.0	100.0
合計	45.9	18.6	25.0	10.5	100.0

2. パーマをかけたたり、髪を染めたりする

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
都心	38.2	20.3	17.6	23.9	100.0
その他	50.7	23.9	12.1	13.3	100.0
合計	46.3	22.6	14.0	17.1	100.0

表1-4 大学進学率と逸脱行動の経験者率

(大学進学率は1が最も低く、4が最も高い)

9. お酒やビールを飲む

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
1	28.2	20.9	32.2	18.7	100.0
2	32.0	21.9	34.1	12.0	100.0
3	32.0	22.6	35.1	10.3	100.0
4	28.9	25.1	34.9	11.2	100.0
	30.5	22.6	34.3	12.6	100.0

1. 授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
1	21.8	21.1	33.3	23.8	100.0
2	23.2	23.4	38.2	15.2	100.0
3	35.5	21.7	31.5	11.3	100.0
4	45.2	25.8	21.2	7.8	100.0
	32.1	22.8	31.1	14.0	100.0

8. 夜11時過ぎに友だちと遊ぶ

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
1	35.8	12.0	32.7	19.6	100.0
2	45.4	18.7	25.6	10.4	100.0
3	52.3	20.6	20.3	6.9	100.0
4	45.1	21.5	25.3	8.1	100.0
	45.9	18.6	25.0	10.5	100.0

2. パーマをかけたたり、髪を染めたりする

	まった くない	1・2 度ある	時々あ る	よくあ る	合計
1	33.9	21.2	19.4	25.6	100.0
2	46.2	24.8	16.8	12.2	100.0
3	50.5	22.6	12.3	14.6	100.0
4	51.2	22.0	9.1	17.6	100.0
	46.3	22.6	14.0	17.1	100.0

高校生の方が、「その他の地域」の高校生よりも飲酒の経験者率も頻度も高い。高校の大学進学率別の比較では、大学進学率が最も低い高校に在学している高校生の経験者率と頻度が、それ以上の進学率の高校に比較して、かなり高いことがわかる。

第8章（逸脱行動の抑制要因）で詳述するが、高校生にとっては、飲酒は「おこなってもかまわない」「悪いことではない」という意識の広がりが見られる。20才未満の飲酒が法律では禁止されていることは、高校生にとって周知のことであると思われるが、「飲んでもかまわない」と回答した高校生は3割に及んでいる（表8-1参照）。

また、「夜11時過ぎに友だちと遊ぶ」（深夜徘徊）者の比率は、女子に比較して男子の割合がかなり高い。学校立地別に見ると、都心の学校の生徒の方が深夜徘徊の経験者率も頻度も高く、「よくある」と回答した人の割合は、「都心」は「その他の地域」の2倍以上になっている。大学進学率との関係では、飲酒の経験者率と頻度でみられた傾向と同様の傾向が見られる。大学進学率が最も低い高校に在学している高校生は、より高い進学率の高校に比較すると、深夜徘徊の経験者率と頻度がかなり高い。

「授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む」に関しては、「一度でも経験したことがある」者の割合は、女子よりも男子の方が多い。学校立地別では、「都心」にある高校の方が経験者率が高い。大学進学率との関連では、大学進学率の高い高校の生徒ほど、授業中にガムを食べたり、ジュースを飲むことを経験した割合と頻度は低い。

全体的な傾向として、逸脱行動の経験者率と頻度は、男子の方が女子に比べて高い傾向があるが、「パーマをかけたり、髪を染めたりする」ことに関しては、経験者率や頻度は、男子よりも女子の方が高い。これは、女子がおしゃれに敏感なためかもしれない。学校立地別と大学進学率別にみると、「授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む」とほぼ同様に、経験者率や頻度は、「都心」にある高校生が「その他の地域」の高校生よりも高く、大学進学率の高い高校の生徒ほど低い傾向が見られる。

上記のことから、性別、学校立地条件、在学する高校の大学進学率の差異によって、高校生の逸脱行動のあり方には、かなり違いがあることが明らかになった。これは、それらの行動が個々人の属性や考え方だけによっているのではなく、さまざまな環境条件から大きな影響を受けていることを示している。

（2）逸脱行動をする理由

では、高校生たちは、どのような理由から上記のような逸脱行動をするのであろうか。逸脱行動をする理由はさまざまに考えられるが、ここでは、あらかじめ19の理由を挙げて、それぞれの逸脱行動をした理由としてあてはまるものを2つまで選んでもらった。一度でもした経験のある人にその理由をあげてもらったのが、表1-5である。逸脱行動によって、理由にかなり違いがあることがわかる。

これら理由の主なものをまとめると7つに分けられる。第1は「なんとなく」という本人にも理由のはっきりしないもの。逸脱行動をした理由で特徴的なのは、「なんとなく」という回答の割合が多いことである。第2は「悪いこととは思わなかった」という理由で、それが逸脱行動であるという認識がないもの、第3は「友人に誘われたから」、「みんながやっていたから」という友人関係によるもの、第4は「楽しかったから」、「かっこよかったから」など自分自身が楽しいという理由によるもの、第5は、「ムカついたから」、

表1-5 逸脱行動の理由(逸脱行動をした理由を2つまで回答)(%)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	授業中にガムをかんだり、ジュースなどを飲む	パーマをかけたり、髪をたためす	病気やケガなどの理由がない	校則ややぶ注意がされる	学校をわざとわたりつりする	自分の家の金やこりた持たす	家族にせいな泊する	夜11時過ぎに友と遊ぶ	お酒やビールを飲む	タバコをすう	レラ電する	店の物を引きする	他人の自転車を借り、盗りする	ナイフを持ち歩く
1. 悪いこととは思わなかったから	19.1	21.4	7.0	26.0	5.4	5.2	20.6	20.1	15.2	11.0	4.7	3.8	5	6.7
2. 友人に誘われたから	1.2	2.9	3.1	1.8	1.4	0.4	13.8	22.9	9.6	11.4	24	9	3.6	1.3
3. みんながやっていたから	9.2	8.1	1.2	13.9	1.8	0.2	2.4	2.0	6.6	7.6	7	9.7	4.7	4
4. 人に注目されたから	0.1	4.2	0.1	1.1	0.7	0.2	4.0	0.1	0.1	0.2	0	0.5	0.4	1.3
5. ムカついたから	1.2	0.8	6.0	3.9	41.2	3.2	2.8	0.3	1.0	3.1	1.8	2	3.2	1.3
6. 親の態度に不満があったから	0.1	0.3	1.4	0.1	0.4	5.6	11.7	0.5	0.3	0.4	0	0.2	0.4	1.3
7. 学校に不満があったから	1.3	1.2	19.9	7.3	13.4	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0	0.2	0	1.3
8. かつこいいと思ったから	0.4	25.5	0.3	4.9	1.4	0.0	0.0	0.2	0.4	7.0	1.8	0.2	0	9.3
9. 友だちとの仲意識から	0.4	0.2	1.6	2.6	1.4	0.6	2.8	8.4	4.2	2.6	4.7	3.2	1.8	0
10. スリルを味わいたかったから	0.7	0.2	0.3	0.7	1.4	2.0	1.2	0.7	0.7	0.9	9.4	16.1	2.5	1.3
11. 自分が得をすと思ったから	1.2	2.4	1.8	0.8	0.0	13.5	0.8	0.8	0.7	0.0	0.6	10.1	14.4	2.7
12. 気分がすっきりすると思っ たから	5.3	3.0	7.1	0.8	10.5	1.0	0.4	2.2	11.3	13.6	0.6	0.7	1.4	2.7
13. 自分もやられたから	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.6	0.8	0.1	0.1	0.2	0	0.2	10.8	0
14. いやなことがあったから	0.5	1.5	27.0	1.5	11.2	1.6	4.0	0.7	3.9	5.9	0.6	0.2	1.4	1.3
15. どうしてもほしかったから	5.1	1.0	0.1	0.3	0.7	55.2	1.6	0.6	1.2	0.9	1.2	31.4	23	1.3
16. 楽しかったから	0.6	5.2	3.5	2.8	7.9	0.4	26.7	49.8	22.7	2.6	26.3	2.3	2.5	2.7
17. 体験してみたかったから	0.6	30.6	0.7	2.6	1.4	0.4	1.2	1.6	11.3	18.0	18.1	6.1	2.5	0
18. 身を守りたかったから	0.4	0.1	1.8	0.7	1.1	0.6	0.4	0.1	0.4	0.2	0	0.2	1.1	24
19. なんとなく	57.6	26.7	34.5	35.8	31.0	17.5	28.3	17.0	27.0	35.9	22.2	29.9	27	42.7
20. あてはまるものはない	20.0	8.3	16.9	20.2	8.7	11.7	13.0	11.5	18.0	11.2	9.4	9.9	18	25.3
一度でも経験したことある人の割合(%)	67.9	53.7	38.7	46.2	14.4	25.0	12.9	54.1	69.5	27.4	8.5	22.7	14.3	3.9
回答総数(人)	1728	1571	1026	1123	391	596	329	1484	1871	722	226	597	344	98

「気分がすっきりすると思ったから」など嫌な気分や緊張を解消するための理由であり、第6は「どうしてもほしかったから」「自分が得をすと思ったから」という自分の利益に直接に結びつく理由であり、第7は「体験してみたかったから」という好奇心に基づく理由である。

これらの理由のなかで目を引くのは、「学校のをわざとこわしたり、傷つけたりする」（学校内器物破損）理由である。そういった逸脱行動をした理由として、「ムカついたから」と回答した者は41.2%もあり、さらに「なんとなく」（31.0%）という理由を挙げている者も多い。それらに次いで「学校に不満があったから」（13.4%）「いやなことがあったら」（11.2%）「気分がすっきりすると思ったから」（10.5%）という理由が挙げられている。ここでは、学校内器物破損という行為をする理由が、「学校に不満があったから」というはっきりした理由よりも、本人自身も理由のはっきりしない「ムカついたから」、「なんとなく」という理由をあげている者の方が多点に注目しておきたい。つまり、自分自身の嫌な気分や緊張を解消するために、こうした行動がとられている可能性があるといえる。すぐ「キレル」青少年が、第3者からは理由が理解しづらいような大きな事件を起こすことが、最近問題になっている。現在の青少年は、自分自身でもよく言語化できていない不満・緊張があって、その解消がかなり場あたりのにおこなわれていることが、この回答からも読みとれるように思われる。

同様の傾向をもつのは、「病気などの理由がないのに学校をさぼる」（怠学）理由である。この回答で特徴的な点は、学校に不満があるから学校をさぼるというよりも、「なんとなく」（34.5%）や「いやなことがあったら」（27.0%）であった。それは「学校に不満があったから」（19.9%）を上回っている。また、「友人に誘われたから」（3.1%）「友だちとの仲間意識から」（1.6%）という理由を挙げた者は少なく、そうした理由よりも「気分がすっきりすると思ったから」（7.1%）「ムカついたから」（6.0%）という理由の方が多い。

男女で逸脱行動の経験者率や頻度に差があったのは、「テレクラに電話する」である。男子高校生は4.3%であったのに対して、女子高校生は、16.3%であった。テレクラに電話することは、「体験してみたい」（18.1%）、「スリルを味わいたかったから」（9.4%）という理由も挙げられているが、「友だちに誘われて」（24.0%）という理由を挙げている者の方が多い。テレクラへの電話は、友だち関係が行動に影響を与えるという点に特徴がある行動であるといえるだろう。そしてそれは高校生にとって「楽しい」（26.3%）というイメージで捉えられている側面があるのである。

「家族に知らせないで外泊する」は、「なんとなく」「楽しかったから」「悪いこととは思わなかったから」という理由、「夜11時過ぎに友だちと遊ぶ」は、「楽しかったから」「友人に誘われたから」「悪いこととは思わなかった」という理由が主な理由として挙げられており、この二つの逸脱行動の理由はかなり共通点がある。

また、「自宅金品持出」、「万引き」、「自転車盗」の理由として、「どうしてもほしかったから」、「自分が得をすと思ったから」などが挙げられており、自分の欲望をコントロールできないために目先の自分の利益のために行動するといった青少年の姿を見ることができる。

全体的傾向として言えるのは、どの逸脱行動の理由としても「なんとなく」という回答が多く見られる点である。逸脱行動をする時に、その行動をする理由を本人自身がはっき

り自覚していないということであろうか。それは、具体的にどんなことを意味するのであろうか。それは、逸脱行動に限らず、さまざま行動の場面で高校生の行動を動かしているのであろうか。現在の青少年の行動全体や逸脱行動を分析するうえで、重要なキーワードであるといえるかもしれない。

第2節 青少年の逸脱行動の類型化

前節で見たように、調査対象となった青少年は、逸脱行動の種類も程度も多様である。そこで本研究においては、調査に回答したそれぞれの青少年の逸脱の程度がどの程度の段階にあるのか、それを「逸脱度」という尺度によって分類することを試みた。その方法は、次の通りである。まず、それぞれの逸脱行動についての回答を得点化するために、表1-6のように逸脱度判定のための得点化基準を作成した。そして次にこの基準に従って、個々の逸脱行動に対する回答を得点化するための基準を作成し、高校生一人一人の回答を得点化し、逸脱度点数を算出した。(逸脱行動の分類は、平成12年度『犯罪白書』の分類を参考にした。)なお、逸脱行動の得点化にあたり、学校内器物破損に関しては、「学校の物をわざとこわしたり、傷つけたりする」という行為が、学校の窓ガラスを割るといったはっきりと器物破損に該当するものから、学校のロッカーや机を蹴とばすといった軽微のものまで含まれるので、他の非行(万引き、自転車盗など)よりも得点配分を少なくしたことをお断りしておく。

個々の逸脱行動ごとに得点化をどのように行ったかを示したものが、表1-7である。この表の配点に従って 調査対象者の一人一人の総得点を計算し、その得点によって、高校生全体を逸脱行動の経験及び程度別に3つと4つのグループに分けた。(表1-8)ここでは、逸脱度を3つのグループに分けたものを「逸脱度変数1」、4つのグループに分けたものを「逸脱度変数2」と名づけておく。「逸脱度変数2」は、「逸脱度変数1」の逸脱がすすんでいる「逸脱群」をさらに2段階のグループに分割したものである。(表1-9)

表1-6 逸脱度判定のための得点化基準

	まったくない	1・2度ある	時々ある	よくある
問題行動	0	0	1	2
虞犯	0	1	2	4
非行(除く学校内器物破損)	0	3	5	7
学校内器物破損	0	2	2	5

図1-2、1-3は、逸脱度変数1、逸脱度変数2の割合と男女比を示したものである。この二つの図からは、全体的傾向として、男子の方がより多く逸脱行動をしていることがわかる。

以下の章の分析においては、この逸脱度変数1、逸脱度変数2を用いて、高校生の逸脱行動とそれに関連をもつ要因(規範意識、家庭生活・学校生活・友人関係の満足度等)等との関連について検討が行われている。